

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース  
／浜崎 隆司

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

・幼児期は、周囲を取りまく人々との絆をしっかりと築く重要な時期である。幼児教育関連の講義内容の中で、幼児と保育者、幼児と親、幼児同士の人間関係を中心に、信頼関係の在り方について講義を進める。  
・学生の意欲を引き起こし、基礎学力や応用力をしっかりと身に付けさせるために、講義だけでなく、保育現場や家庭の親子関係の映像資料を随時用いて、興味関心を持たせ、自分自身の問題として討論を通じて、保育実習や勤務先の幼稚園・保育所等でその知識が役立つようにする。  
・学生の能力や努力を正當に評価し、学生のやる気を引き出すような適正な成績評価を実現するために、出欠の記録を厳格に行い、試験と出席状況の評価点の配分を事業開始時に開示する。

## 2. 点検・評価

幼児教育関連の講義内容の中で、幼児と保育者、幼児と親、幼児同士の人間関係を中心に、最新のデータを取り入れて信頼関係の在り方について講義を進めた。  
保育実習や勤務先の幼稚園・保育所等で実践的活用ができるように、保育現場や家庭の親子関係の映像資料を随時用いて、興味関心を持たせ、また自分自身の過去を振り返り、自分の問題としても考えさせるような講義を展開した。  
出欠の記録を厳格に行い、試験と出席状況の評価点の配分を事業開始時に開示した。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

大学院生の研究意欲を高めるために、大学院生と共に自主的な研究会を設け、その研究成果を学会発表したり、学会誌に投稿する。  
教職志望の学生のために、模擬面接・模擬授業を実施する  
心理学を専攻しているので学生の進路・悩み等についてゼミ生だけでなく、講義受講者にも相談事があれば、受け入れることを通知し、相談があれば積極的に応じる。

## 2. 点検・評価

修了した大学院院生を含め在籍している大学院生と共に自主的な研究会を設け、随時研究会を行い学会発表、学会誌への投稿準備を行った。行った研究は、「呼称と対人関係の質問紙を作成」であり今年度実施予定である。また実際に発表した学会は、日本心理学会、応用教育心理学会等である。論文としては、学内紀要に投稿した。就職志望の学生のために、模擬面接・模擬授業を実施した。具体的には、就職支援委員として、10月の3年次合宿で集団模擬面接、本年度2月には本学で模擬面接を行った。心理学を専攻しているので学生の進路・悩み等についてゼミ生だけでなく、講義受講者にも相談事があれば、受け入れることを通知し、相談があれば積極的に応じた。前期において5名、後期において3名の相談者があり、人間関係や進路についての相談を受けた。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

親子の信頼関係の尺度開発を行う。その成果を、論文化し投稿するまた、その資料を保育者対象の研修や講演・子育て相談を行う際の資料として活用する  
初心者向けの発達心理学のテキストや教材を編集執筆する。  
子育て支援にかかわる保護者のニーズに関する研究を行う。

## 2. 点検・評価

親子の信頼関係の尺度開発を行い。その成果を、鳴門教育大学の研究紀要に一部投稿した。また、その資料を保育者対象の研修や講演・子育て相談を行う際の資料として活用した。実際には、鳴門市教育委員会での子育て支援事業および川内北幼稚園での教員研修等で活用した。  
初心者向けの発達心理学のテキストや教材を編集執筆し、発行した(やさしく学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版)。  
子育て支援にかかわる保護者のニーズに関する研究については、共同研究者と親子の信頼関係についての研究を継続中。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

各種の委員会委員として、本学の運営に貢献する。  
大学院定員充足のための大学訪問、説明会等に積極的に参加する

## 2. 点検・評価

- ・ 就職支援委員会、大学院入試委員会の委員として活動した。
- ・ 大学院定員充足のために大学内での大学院入試説明会に参加、説明を行った。
- ・ 後期に3校の大学院入試説明会を行った。(長崎県立大学・活水女子大学・比治山大学)  
あらたに、埼玉県獨協大学、神奈川県鎌倉女子大学を訪問し、各大学の関係者との連絡調整を行った。次年度鎌倉女子大学の学生を受験させるために研究生として受け入れた。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

附属幼稚園と連携を図りながら, 毎年実施されている自然プロジェクト等の企画に参加し支援する。  
教育支援アドバイザーに登録し, 依頼があれば優先して講演等の依頼を受ける。  
国外の留学希望者を積極的に受け入れ, 研究指導を行う。  
徳島県内、特に鳴門市内の幼稚園等の保育相談・研修依頼・講演依頼を積極的に引き受ける。

### 2. 点検・評価

附属幼稚園と連携を図りながら, 毎年実施されている自然プロジェクト等の企画に参加し支援した。  
教育支援アドバイザーに登録したが前期・依頼なし。  
国外の留学希望者を積極的に受け入れ, 研究指導を行った。実際には, 9月まで, 中国の留学生を研究生として受け入れた。  
徳島県内、特に鳴門市内の幼稚園等の保育相談・研修依頼・講演依頼を積極的に引き受けた。川内北幼稚園の園内研修(9月)、鳴門市教育委員会の保育相談1件(8月)の依頼を受諾した。本年度3月には, 他県ではあるが広島市竹屋公民館で対人関係についてのセミナーを行った。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)